

茨城県陶芸美術館 企画展

華麗なるノリタケの挑戦

—オールドノリタケから現代のマスターピースコレクションへ—

プレス・リリース

平成28年10月1日(土)～12月11日(日)



色絵金盛薔薇風景文蓋付飾壺 1891-1921年 *画像提供：出雲文化伝承館
(株)ノリタケカンパニーリミテド蔵

茨城県陶芸美術館

〒309-1611茨城県笠間市笠間2345番地(笠間芸術の森公園内)

TEL 0296-70-0011/FAX 0296-70-0012

<http://www.tougei.museum.ibk.ed.jp/>

1 展覧会名 華麗なるノリタケの挑戦
ーオールドノリタケから現代のマスターピースコレクションへー

2 開催趣旨

A：一言でいうと（89文字）

（株）ノリタケカンパニーリミテドの特別協力のもと、オールドノリタケとして知られる明治大正期の華麗な食器から、現代の粋を凝らした傑作まで、110年以上にわたるその歩みを紹介します。

B：もう少しでいねいにいうと（165文字）

（株）ノリタケカンパニーリミテドの特別協力のもと、今日オールドノリタケとして知られる明治～大正期の輸出用の華麗な食器やそのデザイン画をはじめ、時代とともに変遷する様々なテーブルウェア、そして現代の粋を凝らしたマスターピースコレクションまで、110年以上にわたり続けられているその華麗なる挑戦の歩みを、同社所蔵品により紹介します。

C：詳細にいうと（766文字）

「ノリタケ」の名で広く知られるノリタケカンパニーリミテドの起源は、森村市左衛門と豊兄弟が明治初期にはじめた日米貿易にさかのぼります。1876年(明治9)、二人は東京銀座に「森村組」を創業、同年豊は渡米しニューヨークに友人らと「日の出商会」を設立、森村組が輸出する日本の骨董品や陶磁器類など雑貨品の販売を手がけました。1878年(明治11)、豊は独立して「日の出商会モリムラブラザーズ(後のモリムラブラザーズ)」を新たに設立、森村組のアメリカにおける販売拠点として陶磁器を主力商品に業績を拡大していき、オリジナルの陶磁器作りも始めました。

森村組はアメリカでの需要に応えるため、瀬戸の窯元から仕入れた素地に、各地の優れた画工に画付けさせた陶磁器を輸出していましたが、やがてそのデザインを日本風のものからアメリカ人好みの西洋風へと転換。さらにニューヨークに図案部を新設して日本からデザイナーを送り、現地の流行に直接触れながらデザインを描かせ、それを日本の森村組が製品にして輸出するというシステムを確立します。

こうして事業を拡大した森村組は1904年(明治37)、名古屋「則武」の地に、素地の製造から画付けまでを手がける本格的な洋食器の製造工場を建設、「日本陶器合名会社」を創立しました。以後今日まで、地名を冠した「ノリタケチャイナ」は世界中に輸出されるとともに、日本の洋食器産業をリードし続けています。

本展では、（株）ノリタケカンパニーリミテド(1981年「日本陶器」から社名変更)の特別協力のもと、今日オールドノリタケとして知られる明治～大正期の輸出用の華麗な花瓶や飾皿、そのデザイン画をはじめ、時代とともに変遷する様々なテーブルウェア、そして現代の粋を凝らしたマスターピースコレクションまで、110年以上にわたり続けられているその華麗なる挑戦の歩みを、同社所蔵品により紹介します。

3 展示構成

出品総数 110件（ティーセット、ディナーセット等の組み物も1件としています。
また60点で1件と数える展示構成もあります）

- 第1章 森村組創業からオールドノリタケの世界へ
- 第2章 ディナーウェアの誕生
- 第3章 ノリタケ・アール・デコ
- 第4章 ハンドペイントの美
- 第5章 テーブルウェアの変遷
- 第6章 フィギュアリンの造形
- 第7章 マスターピースコレクション

4 主な作品（別添作品写真キャプション）

- ①色絵エナメル金盛婦人文飾壺 1891-1921年 *画像提供：出雲文化伝承館
- ②色絵花文飾壺（林直三：画） 1927年
- ③色絵盛上薔薇文双耳花瓶 1891-1921年 *画像提供：出雲文化伝承館
- ④色絵盛上薔薇文双耳花瓶 1891-1921年
- ⑤色絵花鳥文ティーセット 1920-30年
- ⑥マスターピースコレクション ティーセット「Queen's Garden」2011年
- ⑦デザイン画帖 1905 - 06年
- ⑧見本帖 1891 - 1921年

（※すべて(株)ノリタケカンパニーリミテド蔵と記してください。）

5 会期・会場等

会期：平成28年10月1日(土)～12月11日(日)（62日間）
会場：茨城県陶芸美術館 地階企画展示室
開館時間：午前9時30分から午後5時まで（入館は午後4時30分まで）
休館日：月曜日（ただし10月10日(月)は開館、翌11日(火)休館）

6 主催・後援・助成等

主催：茨城県陶芸美術館
特別協力：(株)ノリタケカンパニーリミテド

7 観覧料

一般 820(670)円／高大生 620(510)円／小中生 310(260)円

*（ ）内は20名以上の団体料金。満70歳以上の方、障害者手帳、療育手帳をお持ちの方及び付き添いの方[ただし1人につき1人まで]は無料。土曜日は高校生以下無料。

*【県北芸術祭相互割引】 県北芸術祭のパスポートをご提示いただいた方は、本展を団体割引料金でご覧になれます。また本展チケットをご提示いただくと、県北芸術祭のパスポートを前売料金で購入できます。

8 関連催事

*詳細はイベントチラシ、ホームページ等でご確認下さい

○講演会「ノリタケ110年のあゆみ」

平成28年10月22日(土) 13:30～15:00 当館1階多目的ホール(聴講無料)

講師：中井宏美氏（ノリタケミュージアム学芸員）

定員：120名（先着順）

○ワークショップ「マグカップに切り絵!? 転写紙絵付に挑戦しよう」(事前申込制)

陶磁器の絵付けに使われる転写紙を切って貼り付け、オリジナル模様のマグカップを作るワークショップ。作品は終了後焼成し、各参加者へ直接送付。

平成28年10月23日(日) 午前の部 10:00～11:45 午後の部 13:00～14:45

当館地下1階オープンギャラリーにて

講師：中井宏美氏（ノリタケミュージアム学芸員）

定員：各回とも20名 対象：小学生から大人まで

参加費等：1800円(焼成後の送料含む)及び企画展チケット

申込方法：電話またはFAXにて9月21日(木)9:00より申込受付開始

○学芸員によるギャラリー・トーク 平成28年11月5日(土)・11月26日(土)

いずれも13:30～ *要企画展チケット

9 連絡先

茨城県陶芸美術館 〒309-1611 笠間市笠間 2345 番地（笠間芸術の森公園内）

TEL.0296-70-0011 / FAX.0296-70-0012

展覧会担当 学芸課長 山口 和子

広報担当 企画管理課 首席学芸主事 中島 淳 kouhou@tougei.museum.ibk.ed.jp

※プレスリリース用写真データ

広報担当の E-Mail アドレス kouhou@tougei.museum.ibk.ed.jp までご連絡いただければ、すぐにデータをお送りいたします。写真を掲載する際には“4 主な作品”に記載されている、それぞれの作品キャプションを併記してください。



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧